

8) *Arctotheca calendula* (L.) Levyns detected from Mie Prefecture. This South African species is also introduced to Australia and Portugal.

9) *Daucus glochidiatus* (Labill.) Fischer et Meyer of Australia, was found in Mie Prefecture. The last two weeds are assumed to have entered Japan together with wool materials imported to Japan.

10) A cosmopolitan, *Sonchus asper* (L.) Hill is supposed to have reached Japan some 100 years ago. In Japan two forms are seen, viz., f. *asper*, a completely glabrous form, and f. *glandulosus* of which the peduncles and upper stems bear glandular hairs.

□Phạm-Hàng Hô: **An Illustrated Flora of South Vietnam** vol. I, pp. 1115, figs. 1-2787, 1970. vol. II, pp. 1137, figs. 2788-5272, additional figs. 52, 1972. 南ベトナムの植物 5324 種の図説である。菌類 48, 地衣類 12, コケ類 22, シダ類 122, 裸子植物 35, 被子植物 5135 の図と記載, 属や種の検索がのせられている。これらはすべてベトナム語で書かれている。同氏が *Flora of Vietnam* として 1960 年に出版されたものを充実させ完成したのが本書である。図も記載も簡単で細かな所がわからないが, 今まで図の全くなかった種類がかなり図示されている。フランスが残した標本を基礎にして作られているので, Lecomte の *Fl. Indo-Chine* と共に使うと便利である。貴重な本を見せて下さった韓国梨花女子大の李永魯氏に感謝します。

(山崎 敬)

○バイカル湖産のジュズマリモ (小林義雄) Yosio KOBAYASI: *Sphaeronostoc pruniforme* (Ag.) Elenk., collected in Baikal Lake

1975 年 7 月 23 日, イルーツクから日帰りでバイカル湖見物に出かける。同行は前川君, インターリストの若い婦人が案内役である。アンガラ河の右岸に沿って東南に走る 72 キロの道路はよく舗装され, 欧州シラカバ, 欧州アカマツ, シベリヤカラマツなどに蔽われた低い山なみが続き, それらの間には湿地も見られ, 農牧を業とする 2~3 の部落も望まれた。1 時間余のドライブの後, 河口 (河の入口) のリストビアンカ (カラマツ林の意) 村に着き, 太洋の如く拡る湖に接することが出来た。幸に波静かで, 対岸の山々は模糊として霧に包まれている。湖岸に山がせまり, 斜面にはカラマツなどの疎林があり案外に明るい風景であった。インターリストのスケジュールの下では自由行動はゆるされず, 湖岸のレストラン“バイカル”で食慾の有無に拘らず昼食をさせられ, 次いで博物館を見物し, 湖岸を少々散策して帰途につくという寸法らしい。前川君は不平たらたらであったが, インターリストのベルトコンベヤーに載せられたからには, その範囲内で有効に時を過すべきと考え, レストランで注文せぬのに出されたオムリー (鮭鱒類でオムールと発音するのが正しいらしい) の薄塩にした切身